

東日本ユニオンにいがた

http://niigatachihon.yukigesho.com/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2020年7月1日発行

第29号(通巻第157号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

夏季に向け熱中症予防を求める

2020年度「熱中症を予防できる労働環境」を求める申し入れ

新潟地本は申1号・熱中症を予防できる労働環境を求める緊急申し入れにより、熱中症予防に対する課題について新潟支社と議論を行ってきました。熱中症と見られる症状で社員が救急搬送される事象がグループ会社を含めて連続して発生していたことから、新たに熱中症対策期間を設けることを提案するなど、直接的な対策はもとより労働環境の改善を求めました。

■申24号申し入れ項目

1. 新潟支社における2020年夏季の熱中症予防に関する取り組みを明らかにすること。
2. 予算措置を行い、各現場の熱中症予防に関する取り組みを支援する仕組みを構築すること。
3. 新潟支社危機管理本部指示第N1187(5月29日付)「5. マスク着用について」における「マスクをはずすようにすること」に対する考え方を下記の業務別に明らかにすること。
- ①接客を伴う業務(出札・輸送・運転士・車掌)
- ②屋外作業の業務(設備系統)
- ③屋内作業の業務(検修)
- ④企画部門・内勤業務
4. 社員が業務中に水分補給を行うことに対して会社が責任を持つこと。
5. 熱中症対策に効果の高いマスクを貸与すること。



2月に廃止されたびゅうプラザ長岡駅の店舗跡地を活用して出札窓口にマルスを1台増台し、大人の休日倶楽部、ジバンゴ倶楽部の優先窓口とするよう求めました。

店舗の跡地利用について質すと、JRやグループ会社で使用する方向で考えているが現時点で未定であり、現場の声も聞きながら打ち合わせていくと

2019年度冬期は記録的な小雪となり、例年と比較しても輸送障害は小さく抑えられたとの認識です。しかし、架線凍結による輸送障害が繰り返し発生したほか、「とらん丸」の運用における課題なども積み残されています。

今冬期に向け昨冬期を労使で検証し、万全の備えを行うため新潟地本は6月18日、申25号・2019年度冬期検証に関する申し入れを提出しました。

■申25号申し入れ項目

1. 昨冬の輸送障害を踏まえた考えを示しました。提案時点のびゅうプラザ新潟駅の標準数34名に対して現在員数が20名だと回答されていたことから、大幅な乖離を生じた経過と理由を明らかにするよう求めました。
2. 支社側は、縮小された業務もあつたなかで、インバウンドなど増えた業務もあり、標準数の見直しはしなかつたとしました。
3. 一方で、社員の減少はグリーンスタッフの契約満期によるものが大きく、社員の補充もしてきたと回答しました。

支社側は、この状態が良いとは思っていないとしつつも、標準数は配置の目安であり、業務運営に必要な員は配置してきたとしました。

その上で、旅行業は駅や運輸区のように出面を確保しなくてはならない訳ではなく、年休や超勤にも目を配ってきており現場から不満の声は出ていなかったとしました。

株式会社びゅうトラベルサービスに経営移管後の現在は約20名での運営であるとしたことから、移管や店舗移動を見越して減らしてきたのではないかと質すと支社側は、現時点で必要要件として配置しているため、そこを見据えての要員ということはないと否定しました。



その上で、旅行業は駅や運輸区のように出面を確保しなくてはならない訳ではなく、年休や超勤にも目を配ってきており現場から不満の声は出ていなかったとしました。

株式会社びゅうトラベルサービスに経営移管後の現在は約20名での運営であるとしたことから、移管や店舗移動を見越して減らしてきたのではないかと質すと支社側は、現時点で必要要件として配置しているため、そこを見据えての要員ということはないと否定しました。

旅行業 駅で働く社員の声をまとめた労働条件 労働環境の向上を求める

新潟地本は6月18日、申15号・2019年度「システムチェンジ・コストダウン計画」びゅうプラザの業務運営体制の見直しに対する第二次申し入れの団体交渉を行いました。

施策実施の不透明さを明らかにし、現在員が標準数を大幅に下回っていることに対する支社の考えを明らかにすることを求めて交渉に臨みました。

支社側は、この状態が良いとは思っていないとしつつも、標準数は配置の目安であり、業務運営に必要な員は配置してきたとしました。

その上で、旅行業は駅や運輸区のように出面を確保しなくてはならない訳ではなく、年休や超勤にも目を配ってきており現場から不満の声は出ていなかったとしました。

支社側は、この状態が良いとは思っていないとしつつも、標準数は配置の目安であり、業務運営に必要な員は配置してきたとしました。

その上で、旅行業は駅や運輸区のように出面を確保しなくてはならない訳ではなく、年休や超勤にも目を配ってきており現場から不満の声は出ていなかったとしました。

6. 越乃shukuraの運転台に冷房装置を設置すること。
7. 長時間停車を伴うE・DLでの熱中症対策に対する考え方を明らかにすること。
8. E653系運転台の冷房を強化すること。
9. E127系の乗務員室に扇風機を設置すること。
10. E127系の乗務員室の全面ガラスのフィルムを遮熱・遮光できるものとする。また、遮光板をE129系と同様のものとする。
11. 9項及び10項の対策が完了するまでの間はE129系に置き換えて運用すること。
12. 新潟運輸区他区休憩室に個別に温度調整ができる空調設備を新設すること。
13. 会津若松駅留置の235Dについて発前予告を行うこと。

2019年度冬期は記録的な小雪となり、例年と比較しても輸送障害は小さく抑えられたとの認識です。しかし、架線凍結による輸送障害が繰り返し発生したほか、「とらん丸」の運用における課題なども積み残されています。

今冬期に向け昨冬期を労使で検証し、万全の備えを行うため新潟地本は6月18日、申25号・2019年度冬期検証に関する申し入れを提出しました。

■申25号申し入れ項目

1. 昨冬の輸送障害を踏まえた考えを示しました。提案時点のびゅうプラザ新潟駅の標準数34名に対して現在員数が20名だと回答されていたことから、大幅な乖離を生じた経過と理由を明らかにするよう求めました。
2. 支社側は、縮小された業務もあつたなかで、インバウンドなど増えた業務もあり、標準数の見直しはしなかつたとしました。
3. 一方で、社員の減少はグリーンスタッフの契約満期によるものが大きく、社員の補充もしてきたと回答しました。

え、冬期体制を全系統12月1日から統一すること。

2. E129系ディスクブレーキの抜本的凍結対策について明らかにすること。
3. 車掌の誘導による起動確認について昨冬の評価を明らかにすること。
4. 信越本線(長岡〜柏崎)・上越線の架線凍結対策を今冬に踏まえて明らかにすること。
5. 上越線カッター代行、信越線カッター代行の同時運行に対応できる体制を構築すること。
6. 冬期間のE129系の

初列車は2ユニット以上のツーマン運転とすること。

7. 越後線、吉田〜内野間を新潟30km圏から除外すること。
8. 簡易型乗用除雪機械「とらん丸」の具体的な運用方法について明らかにすること。
9. 昨冬の倒木発生状況を明らかにするとともに、今冬期の倒木発生リスクに関する考え方を明らかにすること。



2019年度冬期検証に関する申し入れ 課題の解消に向け今冬期を検証